

W-800 取扱説明書

W800-z-2305

ご購入ありがとうございます。
ご使用前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱い下さいませようお願い申し上げます。
本取扱説明書はお手元に保管して下さい。

- 印刷による制限のため、本取扱説明書中の図が実際の表示と異なる場合があります。
- 本製品によって生じた、いかなる支出・損益・その他の損失に対して何ら責任を負いません。
- 本取扱説明書を製造者の許可なく変更・複製することを禁じます。

製品仕様 (改良のため予告なく変更する場合があります。)

- 時間精度：平均月差 ±30 秒以内 (気温 25℃ で使用した場合)
- 使用温度範囲：0 ~ +40℃ ※結露なきこと (外観 / 機能に支障無く、連続使用可能な温度範囲)
- 使用推奨電池：単 3 形アルカリ乾電池 (LR6 1.5V) 1 個
- 電池寿命：約 12 ヶ月 (単 3 形アルカリ乾電池 1 個使用の場合)
- 保護等級：JIS IP67 相当 (防塵・防水)

防塵防水機能について

- 湿度が 100% になる場所 (浴室など) でも使用できますが、サウナなどの、湿度が 40℃ 以上になる場所や、温泉場のようにガスの発生する場所では使用できません。
 - 工場など、油分が非常に多い場所では使用できません。
 - 外装が汚れた場合は、水の中に 10 分間くらい浸して洗うことができます。ただし、耐水圧設計ではありませんので、蛇口やホースから直接水をかけないで下さい。
 - 埃が付いた状態でふくと本体に傷を付けてしまう可能性がある場合がございます。
 - 防塵、防水効果を長く保つため、急激な温度変化のある場所 (屋外など) の使用は避けて下さい。
 - 本体や文字板の劣化を早めますので、直射日光の当たる場所での使用は避けて下さい。
 - 電池交換などのために裏フタを開閉するときは、乾いた布などで水滴や汚れを十分にふき取り、ケース内に水や湿気が入り込まないようにご注意ください。
- ※時計の内部にも多少の湿気 (水分) がありますので、外気が時計内部の温度より低い場合は、ガラス面の内側がくもる場合 (結露) があります。くもりが一時的な場合は時計機械部分に支障はありません。このような場合は、お早めに裏フタを外し、文字板側を伏せた状態で、乾燥した風通しの良い場所で陰干しして下さい。

電池の交換について

- 電池容量が少なくなると、秒針の進みが目に見えて遅くなります。このような場合は、速やかに新しい電池に交換して下さい。
- ※買い置きを電池を使用した場合、乾電池に示されている「使用推奨期限」や保管状態により、電池寿命が短くなることがあります。
- ※時計が動いていても、製品仕様書欄に記載の電池寿命を目安に、定期的に電池を交換して下さい。

故障かな? と思ったときには...

※製品が正常に作動していないときは修理を依頼する前に下記を参考に確かめ下さい。

時計が動かない

考えられる原因	処置
電池容量が無い	電池の ⊕ ⊖ の向きを確かめて、新しい電池を入れて下さい。
電池が入っていない	
電池が正しい向きで入っていない	
電池端子の接触不良	端子の表面をふいて電池を入れ直して下さい。

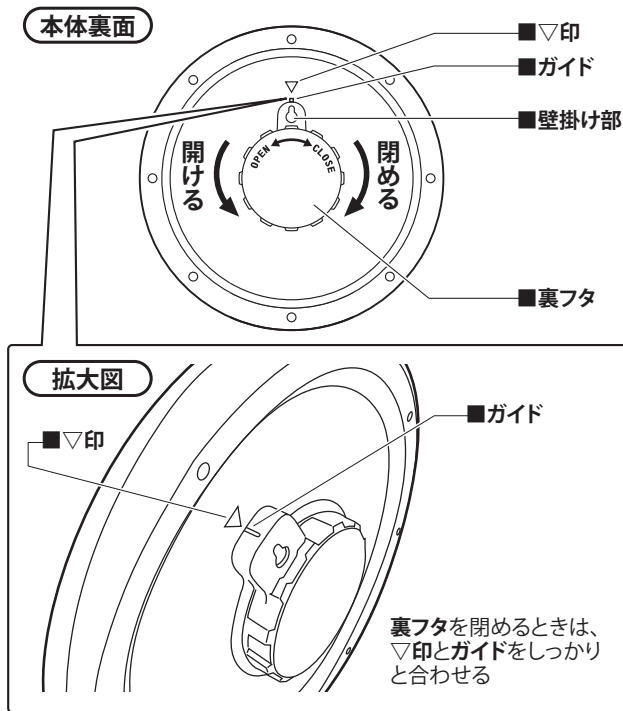
時計が止まる、または遅れる

考えられる原因	処置
電池容量が少ない	新しい電池に交換して下さい。

ガラスの内面がくもる

考えられる原因	処置
裏フタ開閉時に湿気が混入している	裏フタを外し、文字板側を伏せた状態で、乾燥した風通しの良い場所で陰干しして下さい。(本書「防塵防水機能について」参照)

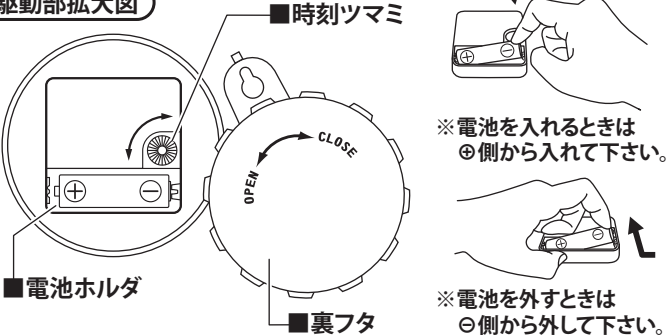
各部の名称



注意

本製品の防水性能は、裏フタを閉めた状態で保たれるものです。裏フタを開閉する際は、湿度の高い場所や、水滴等を避けた環境で行うようにして下さい。

駆動部拡大図



時計の使い方

- ① 時計の裏フタを OPEN の矢印 ↓ の方向に回して外して下さい。
- ② 単 3 形乾電池 1 個を電池ホルダの ⊕ ⊖ の表示に合わせて入れて下さい。 ※電池を入れる際は、必ず電池ホルダに表示されている ⊕ ⊖ の向きをご確認下さい。
- ③ 時刻ツマミを回して現在時刻に合わせて下さい。
- ④ 時計の裏フタを本体に対して水平にして CLOSE の矢印 ↓ の方向へ回し、印と裏フタのガイドが合うようにしっかりと回して閉めて下さい。

時計の掛け方について

注意

掛け方が不適切な場合、落下する危険があります。

- 掛け具に時計を掛けた際に、時計本体を上下・左右・前後に軽く動かして、確実に掛かっていることを確認して下さい。
 - 時計は垂直・水平に掛けて下さい。時計に傾きがあると時計の精度や機能が正常に働きません。
 - ドアを開閉するときの振動が伝わらない所に掛けて下さい。
 - 落下の原因になりますので、壁掛け部以外には掛けしないで下さい。
 - 壁の裏側に電気配線等がある場所に取り付けると掛け具で電気配線等を傷つけ、火災・感電につながる恐れがあります。事前に電気配線等の位置を確認し、取り付けて下さい。
 - 壁の材質・構造を確認の上、この時計の重さに充分耐えられる掛け具を選んで下さい。
- ※材質・構造がご不明の場合は、建築メーカー等へ相談して下さい。

